

## 2018年 秋のオークション報告

日本ブランドに人気集まる  
山崎 50年、約1,750万円

## 全ロット落札！ 伸長続くウイスキー市場

世界的なウイスキーブームに先駆け、日本国内のウイスキー大手各社は相次いで蒸溜所を増強。日本からの輸出金額は10年前の約11.3倍と大きく増加しました。また、ウイスキーはリーマンショックの際も価値が下がらず、資産防衛的な側面も持ち合わせていることから、香港を含む中華圏のコレクターによる嗜好品投資のひとつとして活発に取引されている。今季、日本のコレクターから出品された、保存状態の良いヴィンテージワイン8ロットに加え、極めて高い希少価値を持つウイスキー12ロットが初登場、全20ロット全て落札という好成績をおさめ、投資先を探している市場の資金が流れてくるひとつの行先として、ウイスキー市場の拡大と手応えを感じた。



シングルカスクウイスキー山崎蒸溜所  
ウイスキーづくり60年謝恩の会

シングルカスクも  
下値の10倍超

11月24日開催ウイスキー&ヴィンテージワインセールの最初を飾ったサントリーシングルモルトウイスキー「山崎50年」。出品が確定するや否や問い合わせが相次いだ1本は、121万香港ドル(約1,750万円)で落札。続く「サントリーシングルカスクウイスキー山崎蒸溜所 ウイスキーづくり60年謝恩の会」。非売品として製造され、市場に出るのは極めて稀である。事前の注目度が最も高く、複数のウイスキー愛好家のパドルが次々に上がり、3万~5万香港ドルの落札予想価格に対して下値の10倍を超える30万2,500香港ドル(約440万円)の高値で落札。

九谷焼、有田焼、織部焼などのオリジナルウイスキーボトルに響21年や白州が詰められたサントリーボトルコレクションは重なった事前入札と電話ビッドで、そのほとんどが上値を超える価格で落札された。スコッチウイスキーから50年熟成の「バルヴェニー」は、証明書とともにオリジナルの木箱に収められた限定600本のうちの1本が出品され、22万9,900香港ドル(約330万円)の高値で落札された。



サントリー「山崎50年」2011年発売 150本限定

## ヴィンテージワインにも期待

ヴィンテージワインは、ロマネ・コンティをはじめとするラ・ターシュ、シャトー・ムートンなど厳選されたヴィンテージワイン8ロットが日本人コレクターから出品された。日本人のコレクションは保存状態がよいと人気が高く結果的にすべて香港の愛好家により落札。競り合うビッドは主に香港、中国といった中華圏同士の競り合いだったことは興味深い。ウイスキーに至っては、ハイエンド消費者の増加およびウイスキー知識の普及によって、ウイスキーが徐々に浸透、中国スピリッツ市場に占めるウイスキーの量も明確に増加している。特に都市部の若い富裕層を中心に人気があり極めて猛スピードで発展。今後ますます市場が拡大することが確実視されている。エスト・ウェストでは引き続きウイスキー&ワイン市場の動向に注視していきたい。

\* 日本円は1香港ドルを14.43円とした参考価格

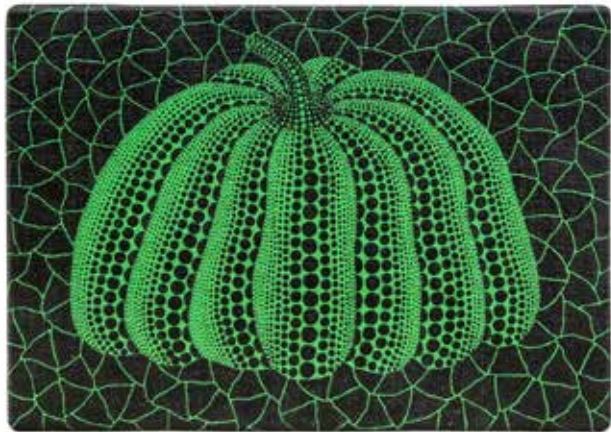


ロマネ・コンティ

近代・戦後・現代美術、アーバン・アート

## 東京・香港ともに堅調

安定の草間・戦後美術、注目高まるロッカク



11月25日に開催された近代・戦後・現代美術の香港セールではシャガール、カシニョール、ビュッフェなど近代を代表する欧米作家からバンクシーやジェフ・クーンズなどアートシーンを賑わせる現代作家まで全109ロットが出品。部門における落札総額は2,609万1,230香港ドル(約3億7,649万円)、落札率は72%と好調を維持、全体的にバランス良く落札された堅調なセールであった。

草間彌生の「かぼちゃ」や「ハイヒール」などをモチーフとしたキャンバス画・コラージュ・版画・ブロンズなどは出品された18点の内17点が落札され、総額は927万4,650香港ドル(約1億3,383万円)を記録した。

近年注目されているロッカクアヤコは、2007年に制作されたアクリル「ORANGE DRESS」は上値を超えて36万3千香港ドル(約523万円)で落札。加藤泉の油彩も海外からの電話ビッドが重なり、42万3,500香港ドル(約607万円)を記録した。



ロッカクアヤコ「ORANGE DRESS」  
72.8 × 60.8 cm

趙無極、朱徳群、韓国の李聖子、シンガポールの鐘泗賓、フィリピンのF.アモルソロなど20世紀の東アジア、東南アジアを代表する作家の貴重な作品がいずれも落札。今後の美術市場において、より一層の活躍を予感させた。欧米からはG・マチューの作品が133万1千香港ドル(約1,920万円)で落札。同じくフランスで活躍した抽象画家の大物S.アンタイの作品も、白熱した

競り合いの結果、133万1千香港ドル(約1,920万円)で落札。

全体として中国経済の低迷が影響し、爆発的な伸びを示した作品はみられなかったが、落札率および価格も安定した堅実なセールであった。慎重な中国に変わって日本、韓国、フィリピンなど、中国経済の影響を受けにくい別地域のコレクターが際立ったセールとなった。

## 10年ぶり現代美術、アーバンアート東京開催

10月20日に行われたオースタムセール東京ではアーバンアート&近現代美術が大きな反響を受け、次回に繋がる好結果を記録した。「アーバンアート」は現代アートをより広い意味で捉え、ウォーホルなどの先駆的な作家から今後が期待される若手作家、ユニークな作品からマルチプルな作品まで、絵画、版画、写真、オブジェ、近代陶芸、デザイン家具など既存にとらわれず幅広く出品を募った。

A.ウォーホル「ジェーン・フォンダ」が276万円で落札、J.オピーのアニメーション作品が494万5千円、バンクシーの「TOXIC MARY」は、バンクシー作品が落札直後にシュレッダーで裁断されたニュースの影響もあり予想価格の下値が80万円のところ230万円と高額で落札されている。



バンクシー「TOXIC MARY」  
70 × 50 cm

ロッカクアヤコのアクリルは多くの事前入札を受け、747万5千円で落札。その他、鴻池朋子、細川真希、小林浩、深堀隆介などが落札されている。戦後美術からは平賀敬が517万5千円で落札、菅井汲、岡田謙三、難波田龍起、横尾忠則、舟越桂などの作品も順当に落札されている。欧米の近代美術からはA.ロダンのブロンズ像が495万5千円で落札となっている。

## アートバブルから復活する作家たち

2006年頃から始まった世界的な現代アートバブルにより、日野之彦、できやよい、鴻池朋子など、当時若手作家と呼ばれた彼らの作品価格は上がったが、リーマンショックの影響により暴落、市場から姿を消した。しかし、ここで再び動きがみられるようになってきた事は、若手作家を取り扱い紹介してきたエスト・ウェストにとって喜ばしい。今年もアーバンアートを東京で継続し新進気鋭の作家作品を紹介していきたい。

## 香水瓶、ヴェネチア…華麗なるガラスの競演

西洋装飾美術

2018 オータムセール東京では、湘南江の島香水瓶美術館コレクションの第2弾、ヴェネチアンガラスコレクションの第3弾と主軸となる2つのコレクションを揃えた。アール・ヌーヴォーのガラス作品、陶磁器や家具等の装飾美術を含む全301点で部門単体の落札率は74%、落札総額は約7,400万円、エスティメイト下値からの出来高率は102%と、全体的には堅調な結果を収めることが出来た。

### ラリック香水瓶、2,185万円でトップロット

湘南江の島香水瓶美術館コレクションでは、1990年に東京都庭園美術館の「ルネ・ラリックの香水瓶展」に出展された貴重な香水瓶「牧歌」は、欧米とアジアからの電話ビッドが激しく競り合い、落札予想価格下値の約2.7倍となる2,185万円で落札された。個人収集家からのガレ、ドーム、R.ラリックの約20点の香水瓶コレクションでは、ドームの「花畑文アトマイザー」は46万円、「蝶と猫文香水瓶」は51万7500円と相次いで伸びの良い結果に。エミール・ガレの工房作品は少々苦戦するも、マグノリア文壁灯は落札予想価格下値の3.5倍の69万円で落札。またラメールやグラヴュール等のドームならではの技法を凝らした「ケシ文花瓶」は下値の1.4倍となる207万円で愛好家によって落札された。



R. ラリック「牧歌」 h9.3 × w6.5 × d3.5 cm  
落札予想価格 800万 - 1,300万円 落札価格 2,185万円

### ヴェネチアンガラス第3弾 大平洋一が人気



大平洋一「BOLLA」  
h22 × w16.5 × d13.5 cm



V. コスタンチーニ

2017年の弊社セールにて100%の落札率を記録したヴェネチアンガラスコレクションの第3弾が登場。2003年まで世田谷にギャラリーを構えていたヴェネチアンガラス専門店「ヴェネチアン・テイル」のオーナーが長年に渡り収集した作品の数々。中でも、ムラノ島の日本人作家として知られる大平洋一の作品は、欧米のマーケットで活発に取引がされている人気作家のひとり。「BOLLA」が109万2,500円で落札されると、後続作品にも入札が集まり、4点が始まり値の10倍を超えて落札された。その他、V. コスタンチーニの昆虫、水辺の生物、鳥の3ロットはそれぞれ始まり値を8～14倍を超えての落札となった。

### 10年の節目、香港で西洋装飾美術を紹介

香港進出10周年という節目の香港セールには、ガレやドームの花器、マイセンのフィギア、ヴィエナスタイルの絵皿やKPMの陶板などを紹介した。色鮮やかなボヘミアのリキュールセットやワインガラスなどを取り揃えたところ、ガラス類の平均伸び率は320%、ガレの工房作品にも反響があった。エスト・ウエストは2008年の香港進出当初からアール・ヌーヴォーやアール・デコのガラス作品を香港市場に紹介しており、当初は珍しさもあり受け入れられていたが、数年経つうちに海外運送のリスクや費用を上回る程の結果が得られなくなっていたが、中国骨董や中国美術ではない新たな投資先としての西洋美術に活路を見出し、市場の受け皿の一つとして機能しているようである。



E. ガレ「風景文双耳付花瓶」  
h44.2 × w31.8 × d15.9 cm

## 宝飾市場を揺さぶる景気低迷

ジュエリー&ウォッチ

### 重いパドル、需要と供給にずれ

今季のジュエリー&ウォッチセールでは、春以降低迷が続いている経済状況や激化する米中貿易摩擦などの政治的・経済的な煽りを受け、東京・香港ともに購買力が上がらず、期待通りではない結果となった。近年、コレクターは宝石の選別や購入のタイミングにますます慎重になっている一方で、元値を維持する傾向が強い出品者との間でバランスが取りにくい状況となっており、これらの不均衡さが、オークションの結果に如実にあらわれている。

東京セールでは、高品質かつ高価な宝石よりも装飾的で趣のあるジュエリーやヴィンテージウォッチなどに注目が集まった。香港セールでは、269.51 ct もの大きさを誇るコロンビア産エメラルドルースを始め、カラーダイヤモンド、翡翠、珊瑚、色石、アンティークジュエリーを含む計 200 点ものラインナップが登場。

### 愛好家の眼にかなう優品とは



香港セールでは、貴重な 2.17 ct 非加熱のタイ産ビビッド レッドルビーと 2.04 ct ダイヤモンドリングセットが 26 万 6,200 香港ドル(約 386 万円)で落札され、3.02 ct ビルマ産ピジョンブラッド ルビーリングは 12 万 1,000 香港ドル(約 175 万円)で落札されるなど、愛好家は優品の選別に確かな眼をもっている。

珊瑚は依然として中華圏コレクターの間で高い人気を誇る。とりわけ深みのある赤珊瑚は最も人気があり、6 点のうち 4 点が落札され、直径 26.3mm の珊瑚ダイヤモンドリングは 24 万 2,000 香港ドル(約 351 万円)で中国の愛好家の手に渡った。市場が回復をすることを期待しながら、お客様のニーズに合わせたセールの組み立てを目指し、国内外問わず、幅広く宣伝することを課題として取り組んでいきたい。



## 東洋美術

### 新たな客層、来季に期待



董其昌「行書手卷“輪台行”」画心: 54.7 × 398.5 cm

### 経済低迷の影響うかがえる結果

秋の香港セールでは、エスト・ウェスト香港進出 10 周年記念の特別企画として、日本人の家族が百年近く所有していた中国絵画作品が出品。長さ 4 メートル近くある董其昌の書「輪台行」は来場した愛好家たちから多くの称賛を受け、オークションでは 145 万 2 千香港ドル(約 2,095 万円)で落札。しかし、中国経済が急成長から落ち着き、米中貿易摩擦などが美術品市場に影響を与え、董其昌の書も本来であればもっと高値での落札がなされるべき作品であるが、従来の顧客である中華系愛好家が現在、買い控えている状況であった。

ただ、いくつかの経済都市を国内に持つ中国経済は日本とは異なり、停滞も回復も急速である。現在は深圳、広州などを中心とした IT 系の業界における新たな富裕層が勢いを持っている。彼らの蒐集の対象として、今後、中国書画・骨董が求められることが予想される。

### 東京セール日本工芸が人気 象牙作品が 9 倍の伸び

10 月に開催された東京セールでは東洋美術部門から 100 点近くの作品が出品された。象牙彫刻作品は今回も人気を博し、全作品が落札予想価格を超えて落札。中でも焼き栗の彫刻が落札予想価格下値の 9 倍を超える 92 万円で落札。

その他、室町時代の名刀匠和泉守兼定も登場し、落札予想価格の上値を超えた。高い技術を誇る日本の初音時絵料紙箱、李朝からは漆螺鈿箱、白磁壺などの作品が順当に落札されて行った。近代陶芸作品は 6 ロットの中 5 ロットが落札。日本美術全体から見ると、ジャンルを問わず、技術力が高く希少性がある作品に人気が集まる傾向を示した。日本伝統美術の素晴らしさを世界のコレクターへ広げていくのが今後の課題である。



象牙 焼き栗 h3.8 × w4.6 cm 49 g